

平成29年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

効率的な生産体制の確立と独自の販売戦略による高所得経営

○氏名又は名称 株式会社前田ファーム（代表 前田 博智）

○所在地 熊本県山鹿市

○出品財 経営（すいか、メロン）

○受賞理由

・地域の概要

山鹿市は熊本県の北部内陸部に位置しており、比較的温暖で、一級河川菊池川の中流域にあたり、古くより肥沃な土壌による穀倉地帯が形成されてきた。山鹿市と熊本市植木町から構成される鹿本農協管内の南部は畑台地で、すいか、メロンをはじめとする施設野菜の生産が盛んであり、特にすいかは全国ブランドとなっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

代表の前田博智氏は平成元年に就農し、すいか、メロンのほ場集約を進め、作期をずらした計画的な生産から長期出荷を実現した。また、前田氏の妻が主に直販による販路の拡大に力を入れ、平成27年には法人化を行った。現在は、施設面積213a、延べ作付面積565aの大規模経営で、所得率は両品目の県モデル経営指標より10%程度高い41%を実現している。

・受賞者の特色

(1) 効率的な栽培による長期出荷の実現

ほ場を自宅の500m圏内に集約し、施設の連棟化、自動開閉装置、暖房機、循環扇の導入など作業効率の向上を図るとともに、計画的に栽培時期をずらして年3回の作付を行い、連続した長期出荷を実現している。また、台風被害の危険回避のため、風速50mに耐える耐候性ハウスを導入し、台風時期に当該ハウスでアールスメロンを栽培することで、安定した連続出荷を実現している。

(2) 高品質化・ブランド化による販売促進

独自で完熟堆肥を製造するなど良質な土壌環境で栽培するとともに、ハンディ型非破壊糖度計を収穫適期判定に用い、その結果を温度管理等の栽培技術に還元することで高品質化につなげている。また、小玉すいかは栽培に高度な技術と労力がかかるものの、消費者に人気があることから積極的に導入したほか、販売時の糖度や食べ頃となる時期の表示等、消費者のニーズに応える工夫を重ね、消費者からの信頼を得て販売促進につなげている。

(3) 女性の活躍

前田氏の妻は、主に直売部門の企画・開発を担っている。特に直売所での試食販売等を通じて積極的に消費者と直接コミュニケーションをとることで、消費者のニーズを把握し、一般的にはあまりみられない小玉すいかとメロンのセット販売や、山鹿市の伝統的工芸品である「山鹿灯籠」の挿絵をプリントした出荷箱等を作成し、前田ファーム及び鹿本地域のブランド力向上に貢献している。

・普及性と今後の発展方向

前田氏は、指導農業士として積極的に研修生を受け入れ、栽培が難しい小玉すいかの栽培技術等の指導を行うとともに、鹿本農協園芸部会小玉西瓜部会長も務めている。今後も、小玉すいかの生産販売の普及と地域のすいか、メロン生産を牽引し、産地の維持・発展を進めていくことが大いに期待される。